教科・科目（単位数）	農業・果樹（２）	学年	２年
使用教科書・副教材等	果樹　（実教出版）	集団	21ＨＲ 生産技術・生産流通コース

科目の目標

（１）果実の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
（２）果実の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
（３）果実の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①　知識・技術	果樹栽培において、必要な基本的な知識を身に付け、その知識をもとに実習に取り組むことができる。
②　思考・判断・表現	果樹栽培の特性や管理方法の知識をもとにどのように実習を行えばよいか、判断することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	果樹に関する体験的な学習に興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。
評価方法	(1) 授業への取り組み：授業に対する姿勢、学習態度、実習への取り組みで判断する (2) プリント・ノート：授業内容を適切にまとめられているか判断する (3) 定期試験

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	果樹の種類と果樹栽培の動向	果樹にはさまざまな種類があり、地域によって栽培可能な樹種があることを理解する。	○	○	
		果樹によって果実の構造に違いがあることを理解する。	○		○
		日本と世界で果樹の生産量・消費量に違いがあることを理解し、消費者が求める果樹とは何か理解する。	○	○	
5	果樹の生育と生理	果樹の一生について学び、ほかの作物との違いを理解する。	○	○	○
		根・枝・葉の成長が相互に関係していることを理解する。	○		
		花芽分化の過程と花芽分化に関係する環境要因について理解する。	○		
6	果樹の生育と生理	受粉・受精の仕組みを理解する。	○		
		果実の成長パターンが果樹によって異なることを理解する。	○		

7		果実の成熟または追熟について理解する。	○		
	果樹栽培と環境	果樹の生育に影響を及ぼす環境要因を理解する。	○	○	
		果樹栽培に必要な養分について理解する。	○		
		土壌管理を行ううえで必要な土壌の構造について理解する。	○		○
9	果樹の栽培管理	接ぎ木の方法を理解する。	○	○	○
		安定した果実生産のために、立地条件や植え付け方法を理解する。	○		
		果樹の生育に適した土壌条件を知り、その管理方法を理解する。	○	○	○
10	果樹の栽培管理	果樹の好適土壌について理解する。	○		
		果樹の生育と施肥の関係を理解する。	○		
		かん水の方法や排水の方法について理解する。	○		
11	果樹の栽培管理	果樹栽培において受粉樹の混植や人工受粉を行う理由を理解する。	○		
		落果の種類と原因、防止対策を理解する。	○		
		摘花・摘果を行う目的と隔年結果について理解する。	○	○	○
12	果樹の栽培管理(結果習性と整枝・せん定)	芽や枝の種類とその性質を理解する。	○	○	
		果樹によって結果習性が異なることを理解する。	○		○
		整枝・せん定の目的を理解し、その管理方法を身につける。	○	○	○
1	果樹の栽培管理	果樹栽培における主な気象災害を理解する。	○		
		果樹を加害する病害虫の種類を理解する。	○	○	
		病害虫の防除方法について理解する。	○		
2	果樹の栽培管理	果樹栽培で使用される植物成長調整剤の種類と利用目的を理解する。	○		
		日本における果樹の施設栽培の動向を理解する。	○		
		施設栽培の栽培管理や課題について理解する。	○		

教科・科目（単位数）	農業・課題研究　　（1）	学年	２年
使用教科書・副教材等	自作プリント　　（　　出版）	集団	21ＨＲ・技術・流通

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。

（２）農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

（３）課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	１年次の科目で学習した知識と技術を再確認し、自らの課題解決に活用できるより高度な知識と技術を深化し、体系的に理解し身に付けるようにする
②思考・判断・表現	学習の目的や課題を意識しながら計画的に課題解決を図り、記録、評価、検証、まとめ、発表などを通し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養う
③主体的に学習に取り組む態度	学習活動を通して、課題解決能力の向上を図り、主体的かつ協働的に地域の農業や産業の貢献に取り組む態度を養い、自己の進路実現に向けて取り組む

評価方法	①成果物の評価（小テスト、毎時間の記録） ②実習状況の観察、成果物の評価（課題設定、計画書、実行、報告書、発表） ③実習状況の観察（質問、意見、自己評価） ④FFJファイル初級　　インターンシップの実施

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	課題研究の進め方	課題研究の進め方について理解する。 調査、研究、実験、作品制作、産業現場における実習、資格取得、学校農業クラブ活動についての内容理解。 FFJ ファイル初級について（作成）	○		○
5	課題の設定	農業に関する課題を見つけ、設定する FFJ ファイル初級について（作成） インターンシップの計画 卒業生のパネルディスカッション 事業所研究、ビジネスマナー講座	○ ○	○	○

6 7 9	課題解決の取り組み	設定した課題解決方法について理解し、能力を身に付ける。 記録の取り方等 FFJ ファイル作成、レポート作成・提出 インターンシップ事前指導、実施 インターンシップ実施後報告会	○	○	○ ○
10 11 12 1 2	活動の評価	活動についての評価、検証、まとめについて理解し、能力を身に付ける。 FFJ ファイル提出 活動の継続性について理解し、３年生での「課題研究」について理解を深める。 ３年生課題研究の発表を聞く。	○ ○	○	○ ○

教科・科目（単位数）	農業・栽培と環境　　（2）	学年	2年
使用教科書・副教材等	栽培と環境（実教出版）	集団	21ＨＲ・技術コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栽培植物の育成環境の調整・管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 栽培と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 栽培と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 栽培と環境について農業生物の栽培や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	調査、観察、診断、実験を通して、生育と環境要素との関係に関する知識と技術、栽培環境の管理と改善に必要な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付ける
②思考・判断・表現	栽培環境に関する課題を発見し、環境に配慮した栽培管理と法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づき創造的に解決する力を養う。
③主体的に学習に取り組む態度	環境に負荷をかけない栽培技術や、安全で安心できる栽培植物の生産や環境の保全を目指して、自分の意志や判断に基づき、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
評価方法	①ペーパーテスト、レポート、記録簿 ②実験・実習の実施過程、観察・調査、評価・反省、記録用紙の整理、成果の処理 ③実験・実習の実施過程、観察・調査、評価・反省、レポートの作成

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	「栽培と環境」を学ぶにあたって 栽培と環境	プロジェクト学習、プロジェクトの進め方について理解する	○	○	
		自然環境のなりたち、栽培環境のなりたちについて理解する	○		○
		日射、最高・最低気温、湿度、雨量の観測、近くの森林の生態系観察、学校ほ場の観察	○		○
5	栽培環境と栽培技術 気象的要素	栽培環境に適した作目と技術方法の選択、栽培環境の改良、農業が環境に与える影響について理解する		○	○
		気象と気象要素、気候について理解する。作物栽培と気候、気象災害とその対策について理解する。	○		○
		気孔の観察と同化作用、発芽試験、天気図の作成と読み方、温室、ハウスの気象観測		○	○
6	土壌的要素	土壌の役割、機能、土壌中の窒素の動態、土壌肥沃度の管理、土壌の管理と改良について理解する。	○		○

		土色の観察、土性の調べ方、団粒土の観察、土壌生物の観察、根粒の観察、化学肥料の標本作製		○	○
7 9 10	生物的要素	農地の生物群集、害虫害、作物病害、雑草害、鳥獣害とその防除について理解する。農薬とその使用法、総合的有害生物管理について理解する。	○		○
		病原菌の観察、病徴や標兆による病害診断、害虫の観察と生活型、害虫の経過習性、天敵の観察、雑草の種類調査、除草剤の特性、農薬の調製のしかた		○	○
11 12	施設型農業の栽培環境	園芸施設の種類、ハウス・温室内の気象・土壌的要素の管理、園芸施設内の生物制御、複合的な環境管理と経営について理解する。	○		○
		ポリネーターの利用（ミツバチ）、塩類濃度障害、電気伝導度測定、植物工場見学		○	○
1 2	環境に配慮した栽培の実践	農業への環境への影響、農業の物質循環機能、環境に配慮した作物栽培について理解する。	○		○
		有機 JAS 圃場、循環型農業の見学		○	○

教科・科目（単位数）	農業・植物バイオテクノロジー（２）	学年	２年
使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー　　（実教出版）	集団	21ＨＲ・技術コース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、植物に関するバイオテクノロジーを農業の各分野で活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）植物バイオテクノロジーについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

（２）植物バイオテクノロジーに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

（３）植物バイオテクノロジーについて特質を理解し、農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	○基礎的・基本的な知識の理解：定期テスト、プロジェクトのまとめのレポート、正確な記録 ○農業分野における植物バイオテクノロジーの意義や役割の理解:各学期ごとのまとめ ○全体的な整理・評価・反省：記録簿のまとめ ○技術の定着：各分野に関する基礎的・基本的な技術の理解・習得 ○技術の活用：計画・目的に応じた技術の実践 ○合理的計画の作成と処理：計画の手順、計画の展開、結果の処理
②思考・判断・表現	○課題解決を目指した思考：観察・調査の内容整理、結果の整理と評価・反省 ○創意工夫する能力：環境の変化に対応、適切な処置、基礎的・基本的な知識と技術の活用、発想の展開 ○基礎的・基本的な技術の体得：各種技術の理解と習得・応用、育成段階に応じた対応 ○成果の発表：記録の整理、的確な表現
③主体的に学習に取り組む態度	○実験・実習の過程における取り組み：意欲・熱意・研究心・責任・協力・安全、教材の取り扱い、器具類の取り扱いと整理 ○プロジェクトの展開：出席状況、服装・準備、コミュニケーション ○教材育成の状況への対応：調査・観察・整理・評価 ○記録状況への対応：継続的に記録、正確に記録、整理状況、記録の態度
評価方法	①ペーパーテスト、レポート、記録簿 ②計画の実施過程、観察・調査、評価・反省、記録簿の整理、成果の処理 ③計画の実施過程、生産物の調整、生産の成果、観察・調査、評価・反省、記録簿の作成

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	「植物バイオテクノロジー」とプロジェクト学習	植物バイオテクノロジーを科学的に捉え、自ら学び取り組むことができるようになる			○
	バイオテクノロジーの意義と役割	バイオテクノロジーの意義と役割について、農業や関連産業における利用の可能性や課題との関連から捉えることができるようになる		○	

5	植物バイオテクノロジーの特質と基本操作 ①植物の構造と機能	植物の構造と機能や無菌操作の基本等との関連から捉える学習活動をとおして、基本的な無菌操作ができるようになる	○		
6 7	②分化と植物ホルモン ③植物の生殖と遺伝 ④組織培養とは ⑤組織培養の方法 ⑥施設と機器・器具 ⑦安全管理 ⑧実験計画と進め方	培地調製や移植等の無菌操作と並行して理解する 課題研究の計画やテーマの選定ができるようになる	○	○	○
9	植物組織培養の実際 ①ラン類の無菌播種 ②茎頂培養	カーネーション、イチゴの茎頂培養（ウイルスフリー個体の育成） 茎頂の材料は採取時期に偏りがあるので、採取できる時期に適宜実施する	○		
10	植物バイオテクノロジーの実践活動	地域の伝統食材の保存（ワサビの茎頂培養と品種保存） 絶滅危惧種の保護（サツマイモ、南アルプス高山植物種子保存プロジェクト） 環境問題と併せて理解する。年間を通して並行して活動する。			○
11 12	遺伝子組み換え ①遺伝子組換えとは ②遺伝子組換えの方法 ③安全性と実用化における課題	育種の手法として遺伝子操作の原理を理解する		○	
1	バイオマスの利用 ①バイオマスとは ②バイオマスの役割 ③資源としてのバイオマス	資源の有効利用と再生産について考えることができるようになる	○		
	植物バイオテクノロジーの成果と展望	植物バイオテクノロジーの成果、現状、課題とこれからの展望について理解する		○	
2					

教科・科目（単位数）	農業・農業経営　（　４　）	学年	２年
使用教科書・副教材等	農業経営　（実教出版）	集団	流通コース

科目の目標

農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ,コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに，経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。

（１） 経営の概念・理念を理解させ、経営者として必要な資質・知識・技術を習得させる。

（２） 経営と情報活用について実践的な知識・技術を習得する。

（３） 本校の有機ＪＡＳデータを利用し、模擬経営診断を行い、実際の経営活動に生かせるようにする

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	農業経営の設計と管理に関する基本的・体系的な知識を身につけ，コスト管理やマーケティングの必要性を理解している。農業経営の改善に必要な農業会計や情報管理，経営診断と設計などに関する基本的・体系的な技術を身につけ，経営管理の改善を適切に行うとともに,マネジメント能力をもって経営の設計と管理に関する技術を適切に活用している。
②思考・判断・表現	農業経営の諸課題の解決を目指して思考を深め,農業経営の設計と経営管理を適切に判断し，経営管理の改善ができるように表現する創造的・実践的な能力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	農業経営に関する諸課題について関心をもち,農業経営を体験する楽しさなどの体験を通して，農業経営の設計と管理に意欲的，かつ主体的に取り組むとともに，経営管理の改善を図ろうとする創造的・実践的な態度を身につけている。

評価方法	①農業経営に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとする。【レポート・授業態度・出席状況】 ②農業経営に関する諸問題を解決し、同級生と話し合い、考えを深めることができる。【授業態度・レポート】農業経営に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に情報を判断し、表現する創造的な能力を身につけている。【レポート・定期テスト】インターネットやアンケートなどを活用し、農業経営に必要な情報を収集することができる。【レポート・定期テスト】 ③農業経営に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や役割を理解している。【レポート・定期テスト】

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	第１章 農業の動向と農業経営	１　日本と世界の農業　①日本と世界の農業の現状を知る。②日本における農業経営の実態と特徴を理解する。③日本も含めた世界における食料の供給について考える。	○		○
		２　農業・農村と食料　①環境・農業や農村には、どのような役割が期待されているか考える。②食生活の変化や食に対する消費者の意識を理解する。③自然の循環機能を生かした農業のありかたを理解する。	○		○
5		３　こんにちの農業経営　①環境保全型農業を実現させていくための制度を理解する。②有機農業の特徴と意義を考える。③新たにみられるようになった農業経営のタイプと取り組みを知る。	○	○	
	第２章 農業経営の組織と運営	１　農業経営の主体と目標　①農業が、だれによって担われているかを知る。②家族経営の特徴を知り、企業経営との違いを考える。 ③農業における収益の意味を、はっきり理解する。	○		○
6		２　農業生産の要素　①農用地の大切さを知り、その正しい利用のしかたを考える。 ②他産業の労働と農業労働の違いを知り、そのじょうずな利用のしかたを考える。	○	○	

7 9	第２章 農業経営の組織と運営	③「経済的に農業資本を利用する」とは、どういうことかを理解する。			
		３　農業経営組織の組み立て　①農業経営の組織を理解する。 ②農業経営者が、どのような理由で作目を選択するかについて考える。 ③農業経営が、なぜ複合化・多角化するかを知る。	○		○
		４　農業経営の集団的取り組みと法人化 ①集団的取り組みが、どのような役割を果たしているかを知る。②農家の人たちが、なぜ、産地づくりをするのかを考える。 ③なぜ、農業の法人化が進んでいるのかを理解する。	○		○
		５　農業経営の運営　①「経営は人なり」といわれる理由を考える。 ②利益が最も大きくなるところは、どこかを知る。 ③経営規模を拡大する利点を理解する。	○		○
10	第３章 農業経営と情報	１　農業経営をとりまく環境　①農業経営をとりまく環境には、どのようなものがあるかを知る。 ②環境と経営を結ぶものを理解する。	○		○
		２　農業経営と情報の収集・活用　①農業経営に必要な情報には、どのようなものがあるかを知る。②情報が、経営活動に及ぼす影響を理解する。③さまざまな情報の正確を理解する。 ④情報の集め方を知り、その活用ができる。	○	○	
		３　農業のマーケティング　①マーケティングとは、どのような活動かを理解する。②農産物の流通におけるマーケティングの重要性を知る。③農産物の生産におけるマーケティングの必要性を理解する。	○		○
		４　農業経営の社会環境　①農業経営における地域の実態について知る。②農業経営の背景にある。さまざまな農業団体について学ぶ。③農業経営者を支える農業政策について理解する。 ④農業経営が外国とも密接な関係についてあることを理解する。	○		○
11 12	第４章 農業経営の会計	１　簿記の基礎　①簿記の意味や簿記の５つの要素などを理解する。 ②取引・勘定・仕訳など、複式簿記の基本を理解する。③複式簿記による、基本的な取引の記帳から決算までの流れを理解する。	○		○
		２　各種取引の記帳と決算　①農業経営における各種の取引の記帳法を理解する。②決算整理を含んだ決算手続きを理解する。 ③伝票を用いた処理方法を理解する。	○		○
		３　農産物の原価計算　①原価計算は、農業経営の内部活動の記録・計算であることを理解する。②原価計算のしくみについて理解する。 ③原価計算を行う場合の簿記について理解する。	○		○
1 2	第５章 農業経営の診断と設計	１　農業経営の診断　①農業経営診断の大切さと、診断のポイントを理解する。②農業経営診断のためのさまざまな指標を理解する。 ③農業経営診断の手順と方法を理解し、自分で診断してみる。	○	○	
		２　農業経営の設計①農業経営の設計手順と、さまざまな設計の方法を理解する。②マーケティングや GAP を活用した経営改善を考える。	○	○	
	第６章 農業経営の実践	１　農業経営とプロジェクト学習　①農業経営におけるプロジェクト学習の進め方について理解する。	○		○
		２　農業経営プロジェクト実践例　①農業ビジネスプランの目的と構成を理解する。②身近な農業経営を選定し、経営改善について取り組む活動を行う。③農業経営に関するプロジェクトを行う。	○	○	

教科・科目（単位数）	農業　・　野菜　（　4　）	学年	2　年
使用教科書・副教材等	野菜　（　実教出版）	集団	21ＨＲ・生産技術

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。

（２）野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。

（３）野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①　知識・技術	・野菜の基礎知識を理解し、栽培に関しての知識を身につけている。 ・観察や実習を通して科学的かつ創造的に学習を進め、野菜栽培のための実践力を身につけている。
②思考・判断・表現	・野菜について性質や特徴を考察し、適切に取り扱う判断力を身に付けている。 ・野菜の栽培方法等について考察し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	・実習における責任や協働の経験を通して意欲を高めようとしている。 ・野菜の種類やその特徴に関心をもち主体的に取り組もうとしている。

評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート　等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク　等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み　等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	野菜生産の役割と動向 １，野菜の種類と特徴(1)野菜の種類と利用 (2)野菜の分類 露地野菜の栽培	日本で栽培されている野菜について、原産地や来歴、生産と消費の特徴を知り、野菜が我々の生活を豊かにしていることを理解する。	○	○	
		野菜の分類によって、共通する栽培管理や病害虫、生理・生態的特性を理解する。	○	○	
		ナス、ピーマン、トウモロコシ、サトイモなどの野菜の栽培管理方法（生育状況に合わせた栽培管理）について理解する。	○	○	○
5	２，野菜の消費 ３，野菜の生産と供給 ４，野菜の安全性 露地野菜の栽培	野菜の消費動向の変化や消費量、消費の多様化について理解する。	○		
		野菜の生産と流通のしくみを理解し消費の働きから輸出入の状況を把握する。	○		
		安全・安心な野菜生産のために、多くの取り組みがあることとその重要性を理解する。	○		
6	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 （１）野菜の生育と生理 露地野菜の栽培	おもな野菜の種まきから収穫までの生育過程を正しく理解する。	○		
		よい種子の条件を理解し、発芽の条件および発芽の生理について理解する。	○	○	
		茎や葉の形成、成長の過程を知り、栽培との関わりを理解する。光合成や温度・光など環境条件との関連について理解する。	○	○	

7	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 （１）野菜の生育と生理 露地野菜の栽培	根の発達や分布について学習し、栽培との関わりを理解する。	○		
		葉根菜類においては、花芽形成・抽だいが栽培上不利になること果菜類では正常な花を着生させることが基本となること理解する。	○		
		開花と受粉・受精のしくみについて理解する。種子形成と果実の肥大について栽培に関連付けて理解する。	○	○	
9	（２）野菜の栽培環境と生育調節 （３）人工環境における栽培技術 露地野菜の栽培	野菜栽培において、さまざまな環境要因が生育にどのような影響を及ぼすか、好適な環境を作り出すにはどのような調整が必要かを理解する。	○	○	
		施設栽培・養液栽培・植物工場などの人工環境における栽培技術の基本について理解する。	○		
		秋野菜(キャベツ、ダイコン、ハクサイ等)の栽培管理方法（生育状況に合わせた栽培管理）について理解する。	○	○	○
10	野菜の育苗 （１）育苗の目的と方法 （２）育苗技術の実際と応用 露地野菜の栽培	育苗の目的を理解し、育苗の歴史を学び、良苗生産のための技術の進展を理解する。良い苗の条件を知り、苗の良否が大事ということを理解する。	○		
		育苗容器の種類と特徴を学習し、利用できるようになる。品種特徴や収穫時期などの条件を考え育苗計画が立てられる。	○	○	
		市販されている育苗培地の特徴を理解し、適切な使用ができる。	○	○	
11	野菜の育苗 （２）育苗技術の実際と応用 露地野菜の栽培	種まき方法と育苗期の管理について理解して実施できる。	○	○	○
		接ぎ木のねらいと接ぎ木の種類・方法について理解する。企業による苗生産について理解する。	○	○	○
		セル成型苗の生産方式とセル成型苗の利用の状況と実際について理解する。	○		
12	葉や花茎を利用する野菜の栽培 露地野菜の栽培	キャベツの来歴、栽培の歴史、生産の動向、生育過程を学習し、栽培に関心を持ち、生育特性を理解する。	○	○	
		キャベツの品種特性と作型の種類を説明し、栽培に適する品種や作型の選択ができる。	○	○	
		栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や出荷の方法が理解でき、出荷ができる。	○	○	○
1	葉や花茎を利用する野菜の栽培 露地野菜の栽培	ブロッコリーの来歴、栽培の歴史、生産の動向、生育過程を学習し、栽培に関心を持ち、生育特性を理解する。	○	○	
		ブロッコリーの品種特性と作型の種類を説明し、栽培に適する品種や作型の選択ができる。	○	○	
		栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や出荷の方法が理解でき、出荷ができる。	○	○	○
2	根を利用する野菜の栽培 露地野菜の栽培 春野菜苗の播種と育苗	ダイコンの来歴、栽培の歴史、生産の動向、生育過程を学習し、栽培に関心を持ち、生育特性を理解する。	○	○	
		栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や出荷の方法が理解でき、出荷ができる。	○	○	
		春野菜苗（ナス、ピーマン、シシトウ）の播種と育苗の方法について実習を通して技術を身につける。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業　・　野菜　（　4　）	学年	2　年
使用教科書・副教材等	野菜　（　実教出版）	集団	21ＨＲ・生産流通

科目の目標

野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。

（１）野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。

（２）野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。

（３）野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①　知識・技術	野菜の生産と経営、流通に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、野菜の生育や栽培環境、環境保全型農業について理解し、その技術を適切に活用している。
②　思考・判断・表現	野菜の生産と経営、流通に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	野菜の生産と経営、流通について興味・関心をもち、野菜生産、経営、流通について改善・向上を目指して、協働しながら主体的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けようとしている。
評価方法	①定期試験、レポート、記録簿 ②行動の観察、圃場の様子、記録用紙の整理、実習プリント、レポート、グループワーク ③圃場の様子、実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み、行動の観察

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	野菜生産の役割と動向 １，野菜の種類と特徴(1)野菜の種類と利用 (2)野菜の分類 露地野菜の栽培	日本で栽培されている野菜について、原産地や来歴、生産と消費の特徴を知り、野菜が我々の生活を豊かにしていることを理解する。	○	○	
		野菜の分類によって、共通する栽培管理や病害虫、生理・生態的特性を理解する。	○	○	
		ナス、ピーマン、トウモロコシ、サトイモなどの野菜の栽培管理方法（生育状況に合わせた栽培管理）について理解する。	○	○	○
5	２，野菜の消費 ３，野菜の生産と供給 ４，野菜の安全性 露地野菜の栽培	野菜の消費動向の変化や消費量、消費の多様化について理解する。	○		
		野菜の生産と流通のしくみを理解し消費の働きから輸出入の状況を把握する。	○		
		安全・安心な野菜生産のために、多くの取り組みがあることとその重要性を理解する。	○		
6	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 （１）野菜の生育と生理	おもな野菜の種まきから収穫までの生育過程を正しく理解する。	○		
		よい種子の条件を理解し、発芽の条件および発芽の生理について理解する。	○	○	
		茎や葉の形成、成長の過程を知り、栽培との関わりを理解する。	○	○	

7	露地野菜の栽培	光合成や温度・光など環境条件との関連について理解する。			
	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 （１）野菜の生育と生理 露地野菜の栽培	根の発達や分布について学習し、栽培との関わりを理解する。	○		
		葉根菜類においては、花芽形成・抽だいが栽培上不利になること果菜類では正常な花を着生させることが基本となること理解する。	○		
9		開花と受粉・受精のしくみについて理解する。種子形成と果実の肥大について栽培に関連付けて理解する。	○	○	
	（２）野菜の栽培環境と生育調節 （３）人工環境における栽培技術 露地野菜の栽培	野菜栽培において、さまざまな環境要因が生育にどのような影響を及ぼすか、好適な環境を作り出すにはどのような調整が必要かを理解する。	○	○	
		施設栽培・養液栽培・植物工場などの人工環境における栽培技術の基本について理解する。	○		
10		秋野菜(キャベツ、ダイコン、ハクサイ等)の栽培管理方法（生育状況に合わせた栽培管理）について理解する。	○	○	○
	野菜の育苗 （１）育苗の目的と方法 （２）育苗技術の実際と応用 露地野菜の栽培	育苗の目的を理解し、育苗の歴史を学び、良苗生産のための技術の進展を理解する。良い苗の条件を知り、苗の良否が大事ということを理解する。	○		
		育苗容器の種類と特徴を学習し、利用できるようになる。品種特徴や収穫時期などの条件を考え育苗計画が立てられる。	○	○	
		市販されている育苗培地の特徴を理解し、適切な使用ができる。	○	○	
11	野菜の育苗 （２）育苗技術の実際と応用	種まき方法と育苗期の管理について理解して実施できる。	○	○	○
		接ぎ木のねらいと接ぎ木の種類・方法について理解する。企業による苗生産について理解する。	○	○	○
	露地野菜の栽培	セル成型苗の生産方式とセル成型苗の利用の状況と実際について理解する。	○		
12	葉や花茎を利用する野菜の栽培	キャベツの来歴、栽培の歴史、生産の動向、生育過程を学習し、栽培に関心を持ち、生育特性を理解する。	○	○	
		キャベツの品種特性と作型の種類を説明し、栽培に適する品種や作型の選択ができる。	○	○	
	露地野菜の栽培	栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や出荷の方法が理解でき、出荷ができる。	○	○	○
1	葉や花茎を利用する野菜の栽培	ブロッコリーの来歴、栽培の歴史、生産の動向、生育過程を学習し、栽培に関心を持ち、生育特性を理解する。	○	○	
		ブロッコリーの品種特性と作型の種類を説明し、栽培に適する品種や作型の選択ができる。	○	○	
	露地野菜の栽培	栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や出荷の方法が理解でき、出荷ができる。	○	○	○
2	根を利用する野菜の栽培	ダイコンの来歴、栽培の歴史、生産の動向、生育過程を学習し、栽培に関心を持ち、生育特性を理解する。	○	○	
	露地野菜の栽培 春野菜苗の播種と育苗	栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や出荷の方法が理解でき、出荷ができる。	○	○	
		春野菜苗（ナス、ピーマン、シシトウ）の播種と育苗の方法について実習を通して技術を身につける。	○	○	○